



図工の思い出美術館構想 & 図工の思い出展② 記録

まとめ 前向きに振り返る

ここで「思い出」はノスタルジーではありません。

日本は今後、観光や食、ゲームやアニメなどのソフト産業を大事に育てていかなくてはならないでしょう。その中で図工・美術の授業時間数が減っていくことは、単純に放置できません。「温故知新」という言葉のように、私たちの思い出たちから、未来の大人たちのためにできることを見つけられたらいいなと思っています。

もっとアートは楽しい。みんなが参加できる創作・鑑賞の場を！

(2015.2 宮川友子)



<http://zukou-no-omoide.com/>

[展覧会企画・冊子編集] 宮川友子(愛知県立芸術大学 美術研究科デザイン領域 石井晴雄研究室)

[発行] 2015年2月

[Planning and edition] Tomoko Miyagawa(Aichi University of the Arts graduate school Haruo Ishii laboratory)

[Published] February 2015



図工の思い出
美術館!
構想
&
図工の思い出展② 記録



園工は
好きでしたか？

これまでの経緯

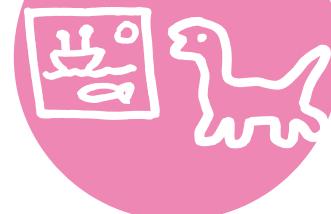


活動の内容

①コレクション p.4

図工の思い出展

20歳以上の大人から、図工・美術作品と思い出を集め、展示します。



②リサーチ p.22

教育の検証

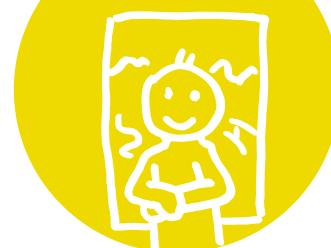
図工・美術教育について研究・検証し、様々な教育現場の連携を支援します。



③教育普及 p.28

ワークショップ

上手下手なく、表現することや体験することを楽しむワークショップを企画します。





②リサーチ

アンケート結果のまとめ (選択問題編)

図工・美術教育がみんなの役に立っているか?

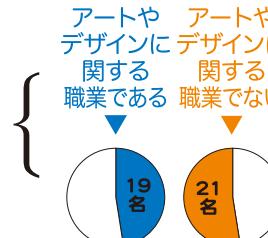


●「図工・美術が役に立つ」ってどんなこと?

今年のテーマアンケートのテーマは、「図工・美術教育がみんなの役に立っているか?」です。つまりその人の人生に十分に影響を与えていたり、その後自分で学習をしたり力を育てたりできていたりについて気をつけて、質問の項目を作りました。そして、「アートやデザインを職業としている人」は、「そうでない人」より図工・美術教育を人生に役に立てるだろうと推測し、分けて集計しました。違いや大きな差のある項目、予想外の項目などに注目してみてください。

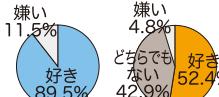
22

アンケート
回答者総数 40名



基本的な項目

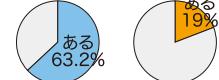
小学校のとき図工の時間は好きでしたか?



中学校のとき美術の時間は好きでしたか?



学校以外で絵画教室、造形教室などに通ったことはありますか?



感性・美意識に関する項目

感性

何かに感動したことがある



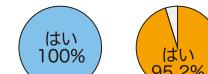
他のことを忘れるほど集中したことがある



何か好きなデザインのもの(美しい街、好きな車、CDジャケットなどなんでも)がある



使い心地のいい道具や家具などが好きだ



街中や建物にあるパブリックアートが1つ以上思い浮かぶ

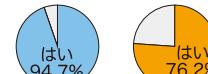


美意識

料理の盛りつけは美しい方がいい



何かを買うとき、外見で選んだことがある



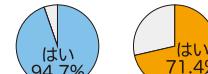
自分の中で美醜の基準がある



社会に批判的な視点を持つことがある



今世間でどんな展覧会が行われているか、1つ以上知っている



図工・美術で学び、後々役に立つことについての項目

技能

折り鶴を作れる



何かを買うとき、そのものの背景や環境なども考える



ハサミ、のり、カッターなど基本的な道具は使える



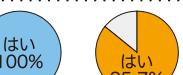
アート作品を買ったことがある



青と黄色を混ぜると何色になるかわかる



絵はがきを選んだことがある

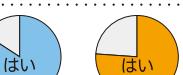


生活

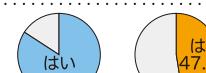
ものは大切に扱う



インテリアにこだわったことがある



年賀状を自分でデザインしたことがある



コンピュータで図形や表を作ったりプレゼンテーションをしたことがある



「遠近法」「モノトーン」「グラデーション」「陰影」などの言葉を使ったことがある



日曜大工などを楽しむことがある



仕事や日々の活動の中で、アートやデザインや、それに関わる人と接したことがある



鑑賞

美術館などで展示を見たり解説を読んだりする時、分かることがあるとうれしい



おもちゃや絵本を作ったことがある



人に道を教えるなどの目的で地図を描いたことがある



イベントや店先などで、体験コーナーやワークショップに参加したことがある



教養

美術館で展覧会を見たことがある



ギャラリーで展覧会を見たことがある



精神

作ったり描いたりすることでストレス、怒り、もやもやなどを整頓・発散することがあると思う



テレビの美術番組を見たことがある



アンケート結果のまとめ〈記述編〉

アートやデザインに関する職業のみなさんの思い出

図工・美術がこんなことで役に立っている、生活に活かしているということは？

絵を描く時にモノをよく見て描く→モノをよく観察できるようになれた
何か企画作するときに（ものづくりだけでなく）多角的な視点で考えることができます。
審美眼をもつ。
役に立っていると感じたことなどありません。気づかないだけだと思います。

道具の使い方とか
現在している職業上、小学校時代に経験したことそのまま思い出し、授業の構成や指導に活かすときがあります。小中学校時代に特に言われた「とにかくみ出すぐらいに大きくかこう」という声かけは、私も言っています。
色彩のバランス感覚や用紙上のバランス感覚は日常の中でのあらゆる判断基準の要素として無意識の中で使用していると思います。

老若男女、多くの色んな人と出会うきっかけ

になる。
現在音楽の仕事をするために美術とは大変ながりを感じます。多くの作曲家が美術作品から影響を受けているので私も多くの絵などを見るようになります。

外国人とのコミュニケーションを取る時、簡単なイラストで説明、写真で確認するなど。

①家を建てるときのデザイン

②室内外のかぎりつけ

③生活すべてに美術が役立っている

押し入れのベニヤを切り抜き風通しを良くしている。気がつくと自宅はいろいろと工夫して生じている

・物事を分解して考えるのが好きになったと思いません。それは生活に奥行きを与えてくれます。

・全ての人工物を誰かが作ったと思うと意図

を汲み取ったり、突っ込みを入れたりできるので時間がつぶれる。

小さな頃から「作る・描く」ことが、好きだったため、それを続けることで（身近にすることで）作品制作・仕事などにつながって（活かしている）。

幼いころ「好きなことには無心で熱中できる」という体験をさせてくれたのが図工の時間だったように思う。「集中できる時間」に対する喜びの感覚は、その後の進路、職業の選択に大いに影響を与えたと感じる。

I think it's necessary to have lessons in school with esthetic and handcrafts. It's make the pupil better to think freely and to be prepared for life, to develop their creativity.

小中学校時代の図工・美術などの思い出を具体的に書いてください。

小学校授業で、社会奉仕団体主催の企画に絵を出品したところ、銀賞をもらいくーピーベンシル24色をもらえた事

片思ひだった彼女と付き合うことになり、舞い上がっていた頃、全面真ピンクの絵を描いたことがあります。

美術や図工は得意な方ではありませんでしたが、出来上がった自分の作品を見るのは好きでした。その課程や想いを思い出すからです。写生大会で、他の生徒は途中で嫌になるところ、忍耐強く書ききることを意識していました。

小学校の美術の先生が、家で飼っていたウサギのデッサンを、すごくほめてくれたことがあります。今でも心に残っている

小学校の虫歯予防のポスターや箱の工作では良くほめられていた。

絵は上手い方だったのでたいがいほめられた

り交通安全のコンクールで入賞したりしたので公民館に自分や兄弟の絵を見に行行った。

勉学・運動は得意だった自分にとって、図工・美術の時間は、楽しみで仕方なかった。

図工や美術の授業の時間はあれだけ好きだったのに、「夏休みの自由工作」の宿題は、めんどくさく感じていた覚えがある。

「なにを作っても良い」という自由すぎる状況は、まずやりたいことを具体的に見つけるところからやらなければならぬので、やる気を出し始めるのに時間がかかった

I remember when we started to work with clay in school, and making figures - I made one fat woman with a bucket, it was very fun and easy to modelling with clay.

親や先生からの図工・美術に関するアドバイス・指導などで、憶えていることは？

中学の時、夏休みの宿題のポスターの講評の時、先生に「赤い文字にグレーの背景を使ったのは素晴らしい。何かを参考にしたのか？」と聞かれました。何となく合うかな…特に何かを参考にしたわけではなかったので、予想外のところで誉められ驚きました。

小さい頃通っていたお絵かき教室の先生の話を聴くと、先生は指導の際に「上手いね」と言うとそれが目的化するからそうしなかったそうです。なので、指導は受けているのでしょうかが、本当に教えてもらったのは道具の使い方程度だった様に思います。

ありません

まったくない。

「雲は白じゃないよ」「顔ははだいろじゃないよ」と教えていただいた。その時は「じゃあどうやってかけばいいの」と思い、白に少しだけ青

を混ぜるとか黄を混ぜるとか分からず、そのままの原色で、雲を緑で塗ったりして「まずい」と思ったことがあります。彫刻刀を使う時には手を前に出すとか厳しく言われていたような思い出もあります。

小学1年の写生会当日の朝、父にどういう風に描けば良いか聞いたところ、「画用紙一面に描いてこい」と言われた事を今でも覚えています。その時金賞をとることができ、そこから絵への興味が出てきました。好きになるきっかけは父の言葉と賞をとった喜びです。

「齊藤くん、自画像は似顔絵ではありません」大きく表現しないと言われたことを覚えていました。

親から、「絵を描くのが好きなのね」と言われたこと。他の習い事は続かなかったので、嫌と言わずに続けてることに関しての感想。

中学校の美術の先生（光風会一日展系の先生）で、風景画の空を赤くぬって、人前で大声で叱られたことがある。

陰影について、絵の具が貰えなくて、自分の思う様に描けなかった時。

・アーチーにはならんってね
・キッキンに飾れるような絵を描いてください。

実家には、古くから「書画骨董に親しめ」という家訓があり、自然と絵画や作品等が身近にあった。そんな教えが今の自分にも強く影響していると思う。

とにかく、よくできたと感じるものに対してたくさん褒めてくれた、という印象がある。

They liked what I did, but I don't remember that they gave me guidance.

ていない人など、十人十色でした。あなたの思い出は…？

アートやデザインに関する職業でないみなさんの思い出

図工・美術がこんなことで役に立っている、生活に活かしているということは？

自分の描いた絵でTシャツを作った。飼い猫の誕生日の飾り付けをした。旅行のときなど、絵日記をつけることがある。

特にないです。

とくに思いつきません。

特に無い

1. 日常生活ではさみやカッターなどの道具を使う時、特に困ることなく使える。

2. 年賀状をパソコンで自作する時のレイアウトをバランス考えて行っている。

3. 美術館鑑賞時に、大まかな美術史を知っていると理解しやすい。

4. 服やアクセサリーなどのコーディネート。

5. 料理の盛り付けでは、鮮やかに見えるよう、お皿と食材の色を組み合わせている。

基本的な工具などの使い方を学ぶことにより、自宅の立てつけの補修などを行っていま

す。

イベントのチラシを作ることがしばしばあるので、タレントとかイラスト、文字の配置などに役立っている。子供に絵をかいたり、おもちゃなど作ったりするのも役立っている。

DVDのラベルを自作するのに、デザインやレイアウトを考えるのに役に立っているかも。

生活する→物が増え雑然とする→イラマ→する→散らかった場所・物を整える(目的や大きさ・色・素材などを分類する)空間を把握する?飾ったり収納の工夫をする→自分好みの空間で生活する(以降エンドレス)

子育てしている時等、何度もお絵描きトリ等で遊んだ事。

・姪たちに、クリスマスカードなど手紙を書く時。

・年賀状を作る時(芋版や版画など)

子供と児童館に通っていたころ、絵を書いたり、工作の時間があり、子供は1~2才なので、お母さんがどれだけセンスよく頑張るかという中で、比較的のスムーズに出来た所。

家中を整理したり、カーテンなどの色を考える事です。

・簡単なイラストが書けると子どもと遊べる。(知らない子どものコミュニケーションにも役に立ちます)

・家具、家電製品など家の中のものを修理できるのは役に立っている感じがあります。

スーパーで食品を買うときはかっこいいパッケージのを選ぶ。時々カルディとかに行って、外国製品のパッケージを見るのが楽しい。

思い当たりません?すみません↓ 趣味のパッチワークの色使いに役立っていることがある

小中学校時代の図工・美術などの思い出を具体的に書いてください。

空を描く時は絵の具を塗った紙を空にかざしたりして、紙と本物の境目がわからなくなるまで色を追求しようとしたけれど、結局境目がわからなくなることはなかった。

卒業証書を入れる木箱に彫刻したこと。

答えがあらかじめ決まっている五教科等の一般的な科目と違い、絵を描く時など自分の感じたこと、思ったことを自由に表現できることに面白みを感じていました。普段使っていたことのない道具を使用できただことも○。

絵を描くのが苦手で、とにかく中学の美術の時間は苦痛でしかなかったです。

夏休みの宿題で郵便箱を作ると郵便局からプレゼントがもらえたので、必ず父と作った。

なぜか近所の子にも作ってあげて、そっちの方がよくできていたときがあった。

自分で考えて物を作る、描くというのは苦痛だった。学校近くの公園での写生は楽しかったが、思い通りの色が作れず苦労した。

マンガやアニメが大好きだった。ノートの余白には大きな瞳にスリリとした手足の架空のヒーロー等を落書きしていました。授業のクロッキーで実際の比率で人物を描こうとするとても不細工に感じ、現実を認識した。

親や先生からの図工・美術に関するアドバイス・指導などで、憶えていることは？

しゃびしゃびのおつゆ描きは年寄りくさいと言われた。

顔を描くときに、縦横十文字を描いて目鼻の位置を決める方法を見た。

とくに憶えていません。

あんまり褒められた記憶がなかったです。悪いなら悪いなりに良い所を探しながら、そこを褒めて貰えていたら、少しは美術が好きになっていたかもしれません。

「画面を丁寧に塗りつぶしている」、「物の形を正しくうつしろしている」などのアバウトな褒め方をもらっていたような、子ども心には、友だちからのコメントの方が響いたのを覚えています。

中学生の夏休みの工作として、カセッタラックを作りました。あるメーカーの景品で、かつこいいデザインが気に入ったので、写真をも

とに比率計算して木で作り、塗装もしたのですが、出来が良すぎて担当の教師から、キットを組み立てただけだと決められて全く相手にされなかつたくやしい思い出があります。

言われた記憶はあるが、内容は覚えていない。絵を描くとき、下書きを何度も消しては描き直すなどと言われた。

高校時代、美術の先生は他の教科の先生と「何か違う」と思っていました。雰囲気かな?油絵を習った時、素材感や立体感などを表現するのに描写や色彩の技法以外にも砂やセメントをベースに使うなど、はじめて「アートっぽい」世界に触れた気がします。

絵の具を水にあまり薄めず書いてみたら! 小学生6年の時、先生のデッサン画を描いた時に、他の子が描かない方向から描いていたら「着目がおもしろい。」と初めて言われ、他の

人と異なって良いことを教えられました。自分の思い通りできている時は良いのですが、少し失敗したり、思い通りに出来ないと、もうどうでも良くなってしまい、作品にその思いが現れてしまい、いつも美術の先生に、あきらめずに、最後まで作品と向きあえるようにならないとと言われました。

賞をいただいたらまるが多くさんだとうれしかったです。

小・中の先生はスキルばかりを教わった気がします。あまり楽しくなかったです。(それ以外は認めない、という感じで)

特になし

小物入れを作る時、蓋の付け方を父にアドバイスしてもらい、とても感心した。

自分が表したい作品づくりを大事にして欲しかった。

作品と年表

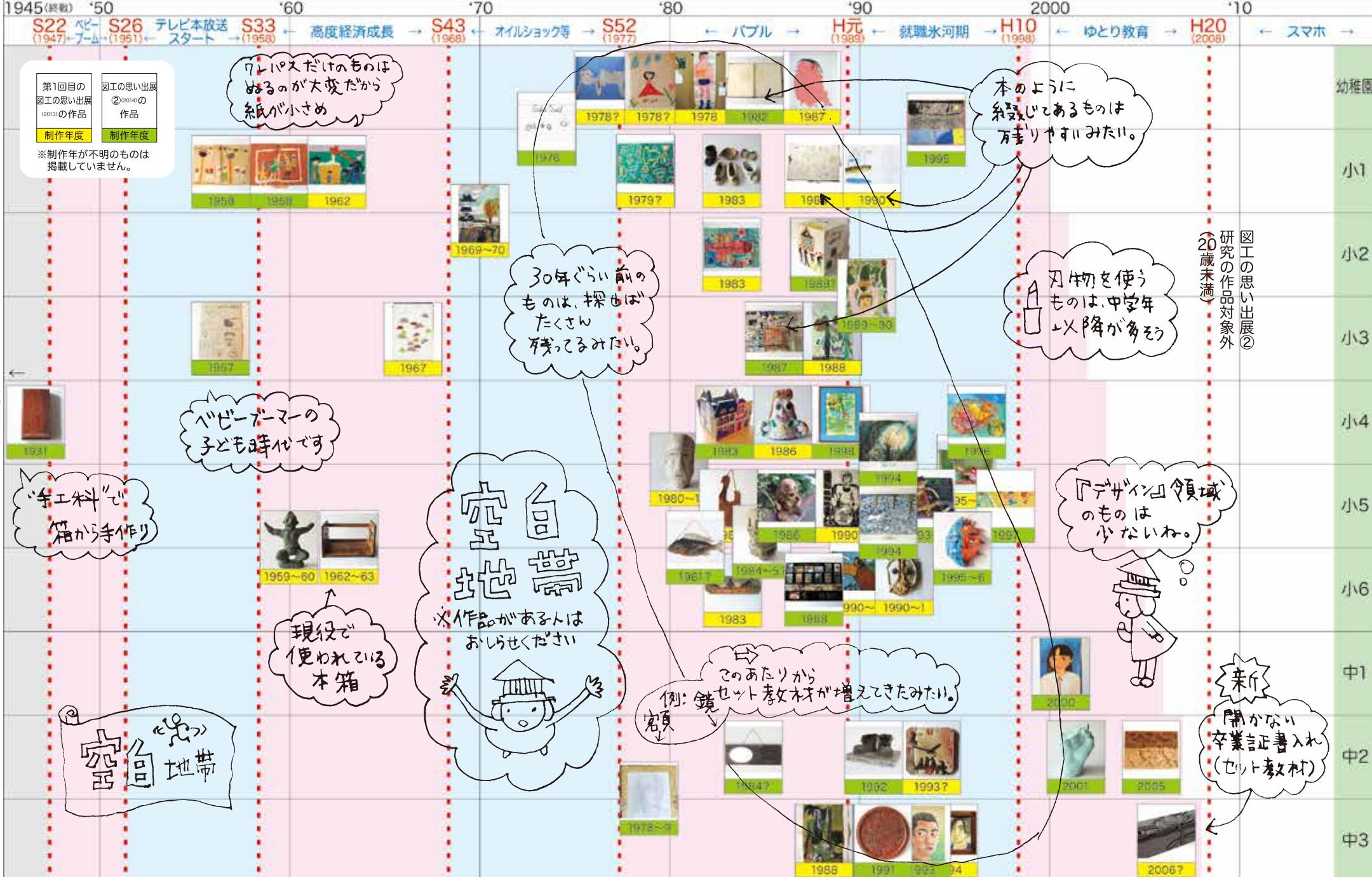
作品と時代に相関関係はあるのでしょうか?

2回分の図工の思い出展の作品を、戦後から現在の流れや文部科学省による「学習指導要領改訂」の歴史と対応させました。

「ゆとり教育」期間の作品は4点。「セット教材」によると思われる作品は、1990年以降ぐっと増えました。

最古の作品は戦前の1931年度に作られたH.Kさんによる「筆箱」。戦後では、Y.Kさんによる「絵ノート」。最も新しい作品は、2006年度?に作られたE.Kさんの「卒業証書入れ」でした。

■赤い数字は、小学校における学習指導要領改訂の年



③教育普及



ワークショップ①

「アートになろう！」

名画などのまねをすることで全身で鑑賞体験。



ゲルニカ(2014.3.30 フォレスト 愛知県立芸術大学・スタジオ)

●参加型鑑賞体験

誰もが知っているような美術史上の名作について、事前に簡単なレクチャーをし、その後その作品と同じポーズをとり真似をします。でも、いざ真似をしようすると、改めて見直さなければならないのでここで鑑賞という行為が発生します。実際に全身を使うため、記憶に残りやすいのです。

自分がアートになった姿を、タブレットで確認したり、インスタントフィルムで持ち帰ったり、ネットワークプリントも試しました。

●いろいろなモチーフ

無数の名作から、様々なモチーフを選べます。これまで1人用としてはモナリザ、叫び、大谷鬼次の江戸兵衛、ムーランルージュを、数人のものは阿修羅、ゲルニカを行いました。いずれもコミュニケーションながら体験することができます。



k.y

阿修羅(2014.1.18-19 ハートフルフェス
タ2014・アクティブG(岐阜))

ワークショップ②

「シルエットを残そう」

「図工の思い出展②」会場内でミニワークショップを行いました。

(2014.10.4~19)



●その人がそこに来た印

来場者は、壁に設置された段ボールの壁面にそってポーズをとります。複数で来場された方はお互いに、お一人の方には私が、その人のシルエットをなぞります。

●選び取ることが作品

「なぞる」ことには絵の上手下手は関係ないです。でもたくさんのペンの中から色を選んだり、壁の無数の場所から1つを決め、見栄えのするポーズをとることも、アートです。

●収穫と課題

たとえ友達同士でも、こんなに接近したり体に触れたりすることは少ないので。いろんな会話がはずんでいました。

約2週間の会期の最後には、たくさんの線が複雑にからまった不思議なパワーのある壁画になりました。

壁画の保存を望む声がありましたがあれ発表は未定です。